

最上小国川ダム:県、疑問点など説明―第2回協議 / 山形

毎日新聞 2014年04月13日 地方版

県が建設計画を進める穴あきダム「最上小国川ダム」（最上町）に関する関係機関の第2回協議が12日、新庄市角沢の県農業大学校緑風館で開かれ、前回協議で小国川漁協（舟形町）が示した疑問点などについて県側が説明した。

ダム下方の水を流す穴が洪水時に目詰まりを起こさないかとの質問に対し、県の上坂克巳県土整備部長が、穴の手前に設置する鋼製スクリーンで流木の流入を防ぎ、状況により重機を入れて対応すると回答。アユなど漁場環境が悪化するとの懸念には、アユの成長が良い流域は濁りが希釈されやすい場所のため、影響は小さいと説明した。

内水面漁業の振興策については、若松正俊・県農林水産部長が「『ダムのない川』以上の清流・最上小国川を目指す」として魚道の設置・改修など総合的な対策の実施を提案。ダム建設に反対する同漁協の高橋光明組合長から「ダムのない川に匹敵するセールスポイントはあるのか」と質問が出たが、県側は次回協議でより詳しい案を示す考えを示した。

また、漁協側から協議に有識者の参加を認めてほしいとの要望もあったが、「議論が振り出しに戻る」などの意見が出て却下された。【安藤龍朗】